



あすなろ スタッフ研修会

1月27日 NPO法人「宝島」の米田さんをお招きして、子ども子育てプロジェクト事業の一貫としてのスタッフ研修を行いました。発達障害と不登校についての関係や日本と欧米の障害に対する認識の違い等 又、高校卒業後の行き場がない現状を知らされました。あすなろを巣立った子供達の頼もしい姿や様子を聞くごとに、スタッフは元気を頂いていますが、この研修を通して、これからのあすなろの活動について、皆で考える良い機会になったと思います。



* 節分に備え・・・

今日のあすなろでは、節分が近いと言う事で、それぞれ子供達が【鬼の顔】をテーマに絵を描きました。絵を描いたのはMさん、Yさん、N君の三人。それぞれが思い描く【鬼の顔】とは、さまざまな物がある物ですね。鬼の顔を久しく見ていない等、個々の思う【鬼】が沢山あり、とても楽しかったです。鬼が良くわからずに、想像で鬼を書いてみる、一般的に見る鬼をリアルに書いてみる等々。



大人組の方々は、紙コップを使って風鈴の様なものを作っておりました。細い糸を紙コップの内側につけ、その糸の途中に小さな鬼の顔を所々につける物です。可愛い飾りで、部屋の一角に飾ると、節分らしさが出て良いかもしれませんね。



2月12日 山下英三郎先生の講演会

「こどもたちの可能性を信じて」の題目で、日本社会事業大学教授、日本スクールソーシャルワーク協会会長である先生から スクールソーシャルワーカーの存在意義、活動状況、かかわり方などについて、講演をいただきました。



〈参加者の感想より〉

- ・ その子と環境との“関係性”にアプローチしていく、というSSWの役割がとてもよく理解できました。またその子やその保護者等が変わっていける可能性は必ずあると信じて、自分自身で考えさせ、決めさせ、行動させていくことが大切だということ学びました。こうした視線があれば全ての行動は失敗でさえも、その子にとって意味のあるものとなり、そこからまた可能性が広がっていくのだとわかりました。
- ・ 否定的な行動や発言でも無意味なことではなく、本人にとっては意味のあること、そんな無意味と思えることでも可能性をいつでも信じてやるのが大事だと言う言葉がとても印象に残りました。